

EW
Emergency Watch

エマージェンシー ウォッチ
Emergency Watch

No11



発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター

 2011年 10月受診者数：1954人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

- 1. 発熱 : 1025人 (759人)
- 2. 咳 : 924人 (317人)
- 3. 鼻汁 : 591人 (28人)
- 4. 嘔吐 : 280人 (92人)
- 5. 発疹 : 220人 (156人)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎: 657人
- 2. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 291人
- 3. 感染性胃腸炎 : 184人
- 4. 気管支炎・肺炎 : 184人
- 5. じんま疹 : 89人



今月のワンポイント！

早いもので 2011 年もあと 2 カ月となりました。運動会は終わりましたが、いも掘り、音楽祭、紅葉等の秋のイベントが盛りだくさんです。食欲の秋、読書の秋といわれるだけあって、非常に過ごしやすい気候ではありますが、急な冷え込みなどもあり、風邪をひかないような対策も十分に取りましょう。また今年もインフルエンザのシーズンに備えて、予防接種が始まっています。この予防接種は任意の予防接種ではありますが、子供たちだけでなく、家族全員が接種し、感染予防に役立てるようにしましょう。

さて、10月の総受診者数は 1954 人で、9 月と比べてもほとんど変わりはありません。その中で受診理由として最も多かったのは発熱、鼻汁、咳嗽といった「かぜ症候群（急性上気道炎）」であり、これも 9 月と同じです。しかし朝晩の冷え込みが次第に強くなってきますので、体調の管理にはどうぞご注意ください。

また急な気温の変化から、気管支喘息、喘息性気管支炎の患者が多く見られます。さらグループといった特徴的な咳をする子どもも多く来院されています。子どもたちの呼吸状態には十分注意し、しんどそうな呼吸をする場合は早めの対応をお願いいたします。

現在のところ、当院ではインフルエンザの発生はありませんが、地区によってはインフルエンザが発症しているようです。冒頭にも書きましたが、十分な感染防止策を講じるように心がけましょう。

